

# Canadian Association for Japanese Language Education

## 2013 年度 CAJLE 年次総会議事録

日時： 2013 年 8 月 22 日午後 5:30pm～ 6:30pm

会場： University of Toronto, UC179

開票：本年度 CAJLE 会員実数 154 名のうち総会出席者 15 名、委任状 49 名。合計 64 名で会員実数の 10%を満たすことにより総会が成立した。

1. 出席者確認
2. 総会宣言： 総会成立宣言：書記（岸本）
3. 会長挨拶：ラム会長
4. 議長選出：ラム会長より下條氏が議長に指名された

### 5. 2011-2012 年度年次総会議事録の承認

昨年度(2011-2012)の年次総会議事録は、本総会にて承認された。

### 6. 報告事項：2012 年度活動報告及び 2013 年度活動予定

#### 1) 書記（岸本）

新理事、萩原あみ氏の紹介の後、昨年の大会についての報告があった。

2012 年度 CAJLE 年次大会は、アルバータ州のバンフにて、二日間に渡り、バンフ国立公園バンフパークロッジリゾートホテル&カンファレンスセンターにて開催された。テーマを「理論と実践の連携」とし、カナダ、アメリカ、日本、台湾、韓国から延べ 107 名の多彩な参加者を迎え、大成功に大会を終了することができた。また、大会中に行ったアンケートからは、参加者の方々より、とてもよい評価があり、よかった点、改善すべき点、今後の開催地、トピックなどの希望を含め今後の参考になる有意義な意見を得ることができた。

8 月 2 日に行われた 2012 年度の総会では、年間の活動報告と 2012 年度の活動予定、理事改選、2011-2012 年度修正予算案、2012-2013 年度予算案、CAJLE By-Law 定款の修正についての報告が主な議題であった。2012 年は理事改選の年であり、現理事 13 名が継続、新理事 2 名が選出され、ジャーナル研修部署の構成補佐として、2 名が加わった。

#### 2) 発表企画（柴田）

昨年は 35 本の研究発表を採用、その内、1 本がキャンセル、2 本が NO show で最終 32 本が発表された。本年度は口頭発表以外にポスター発表も募集。また、希望者の中から Proceedings を募集。結果、プロポーザルはカナダ、アメリカ、日本、中国、韓国、モンゴル、フィリピン、台湾の合計 6 カ国から 68 本集まった。採否は発表企画委員 2 名以外に外部の審査員 2 名を依頼し、合計 4 名で審査をし採否を決定した。結果、口頭発表が 38 本（日本 14、アメリカ 10、カナダ 6、台湾 3、韓国 3、モンゴル 2）ポスターが 18 本（日本 13、カナダ 2、中国 2、台湾 1）、不採用が 12 本。Proceedings の状況として、8 月 15 日が締め切り今のところ 32 本の原稿が集まっており、できれば 9 月にウェブに掲載したいとのこと。

### 3) ジャーナル編集 (下條)

- 2012～13年度は理事の編集委員、安部さやか、津田麻美、下條光明に3名加えて、非理事の犬塚久美子、加山裕子、渡辺文夫、合計6名で編集活動に携った。
- 2013年発行の14号は、掲載候補の投稿論文が9本あり、査読審査を経てそのうち3本を採択、それに昨年の大会講師の畑佐由紀子先生によるご寄稿をあわせて掲載した。
- 14号の査読協力者は、ジャーナル査読委員4名を含む18名で、投稿論文1篇につき査読者2名による匿名査読を行った。
- 2013年よりジャーナルはオンラインですべて一般公開となった。なお、バックナンバーで電子版の元のファイルのないものは今後スキャンして公開予定。
- 次号15号もこれまで同様に大会講師による寄稿、および投稿論文の審査をへて掲載するものとする。

### 4) 広報 <及びウェブサイト> (青木)

- 2012年6月と2012年12月にニュースレター44号、45号を発行した。
- これまでバックナンバーのみウェブサイトに掲載していたが、NL45号以降、発行と同時にウェブに一般公開することになった。
- 引き続き、ウェブサイトの **Bulletin Board** ページでは、会員メーリングリストで流している学会・ワークショップ・公募案内などの情報を随時掲載している。公募や学会のお知らせなど情報募集中

### 5) ウェブサイト (青森)

- 昨年より、有森氏がメンテナンスを引き続いている。今のところ特に問題なし、適宜アップデートを行っている。

### 6) 開発企画 報告無し

### 7) J-GAP (有森)

- CAJLEは日本語教育グローバルネットワークのメンバーとして、オンタリオ州トロントと周辺地域で、大学、高校、日本語学校の教師約20名からなるJ-GAP勉強会を立ち上げ、地域の継続学習支援の体制づくりを目指して活動を行っている。勉強会は2～3か月に1度の割合で開催しており、2012年度は5回の勉強会を行った。
- 前年度に継続学習支援の情報共有を目的としてオンタリオ州の日本語教育機関のリストを作成し、プログラムの詳細情報と共にCAJLEのウェブサイト上で公開したが、今年度もその情報のアップデートを行っている。
- オンタリオ州における継続学習の状況を把握するために、2012年9月に高等教育機関10校、生涯教育3校、非営利の日本語学校2校に学

習者へのアンケート調査の協力依頼を行い、高等教育機関5校、日本語学校2校から316の回答を得て、分析を行った。その結果はCAJLEウェブサイト上で公開している。

- 昨年に引き続きシラバスプロジェクトを行っている。これも現在進行中である。2013年4月には日本語教育のアドボカシーの一環として、CASLT、カナダ外国語教師会において、J-GAPの活動を紹介する発表を行った。

## 8) 部会活動：

### a) オンタリオ部会（有森）

- 2009年12月より行っている「日本語学習を継続させる」シリーズというトロントと周辺地域の教師のための情報交換会を、今年も引き続きジャパンファウンデーショントロントと共催で開催した。他の教育機関でどのような日本語教育が行われているかを知ると同時に教師間のつながりを強め、継続学習支援につなげていこうという趣旨のもと、毎回大学、高校、日本語学校の教師20～30名が参加している。昨年8月以降は12月、3月、7月の3回開催。
- 今回、2009年以来、4年ぶりにトロントでの年次大会の開催となり、これまでの活動を地元トロント、州、国外の日本語教育関係者に発信し、情報提供、情報交換をすることを目的に、プログラムにオンタリオ部会特別企画として「オンタリオにおける日本語教育」を開催してゐる。

### b) アトランティック部会（大江）

アトランティック部会は、この一年は大きな活動はしていない。今年は何らかの集いのような活動ができればいいと思っている。

## 9) CAJLE 団体継続申請と定款改定（ラム）

- CAJLEはカナダ連邦政府のNPOとして登録されている。NPO Cooperation Actが改定され、団体の継続申請の必要性和定款作成が義務付けられた。継続申請の提出期限は2014年10月17日。Canada Not-Cooperative Actに継続申請の締切に遅れると新規団体として申請が必要。
- 連邦政府の規則により定款の原案は全会員の三分の二の承認が必要になるため、来年の総会前に幅広く会員に呼びかける。
- 定款作成メンバーはラム氏、伊東氏、他理事1名で行う予定。最初から弁護士を雇うと高額になるので、ある程度のところまで定款作成メンバーで作成し、最終的に弁護士に見てもらおう。弁護士の費用は約1000ドルを見積っている。
- 新定款切り替えまでの過程
  - ①理事がドラフトを作成。
  - ②次回の総会で定款改定について議題にする。
  - ③会員から三分の二の承認を得る。

④もし、却下された場合は、仮申請の内容は on hold で一旦中止となり、再提示し承認を得た時にそこから再スタートする。

⑤新定款は一年以内に Cooperation Canada に提出しなければならない。

- 今回の総会で以下の事項が承認された。  
(1) Special resolution 理事に継続申請する権限を与えること、  
(2)4031 フォームの内容に意義がないこと、(3) 承認した時点で新定款開始することの確認、(4) 申請手続きの全てを理事に任せること。

## 10) 渉外関係 (ラム)

### a) 日本語教育グローバルネットワーク・GN

- 日本語教育国際研究大会：International Conference on Japanese Language Education (ICJLE) は、日本語の教育と研究について、国境、地域を越えた協力と情報交流を推進することを目指して開催され、現在、九つの国と地域により「日本語教育グローバルネットワーク (GN)」が結成されている。伊東祐朗 (すけろう) 氏が今年から会長に就任。CAJLE は 2008 年 8 月より GN に参加したため、年次大会と同時に開催される代表者会議に出ることが必須となっている。2012 年、名古屋で行われた GN 代表者会にラム会長が参加してきた。
- 2012 年 ICJLE の名古屋大会が 8 月 17 日から 20 日まで行われ、GN 代表者会議 (参加者 32 名) も同時に行われた。GN 代表者は一年ごとに変わる団体もある。各学会の更新情報の共有。確認をした。
- 大江前会長から引き続き、次回の国際大会主催国の候補場所が問題。次回は欧州とカナダ (CAJLE) が候補となっているが開催は難しい。名古屋大会では、次回開催場所が決まらなかった。オーストラリア・シドニー、シドニー工科大学にて 7 月 10 日から 12 日までの開催をトムソン氏が今年、決定。その際に、カナダでの開催の検討を打診された。
- ICJLE の 9 カ国の代表者で文科省、教育通信シリーズ海外日本語教育事情のコラムに 5 月に CAJLE も記事を投稿。5 月締切。7 月 7 日号カナダにおける教育事情を書いた。『カナダにおける日本語教育の現状、東西の州で異なる学習環境と課題』を投稿。

### b) J-GAP について (有森)

- 昨年、J-GAP の代表者会議に参加。新たに、台湾、中国、オーストラリアから代表者会議に出席があった。
- 先日、JFStandard より、助成金 3542 ドルの承認を頂き、2013 年の活動資金にまわすことができるとの報告があった。

### c) CASLT と CAJLE 協力関係(小室リー)

- 2012 年 9 月に CASLT の AGM にて Canadian Association of Second Language Teachers (CASLT) と CAJLE の協力関係を 2 年間更新。2012 年 4 月に二年に一回開催される Language without Border (LWB) にラム会長が招待され、CAJLE ポスターセッションを行った。有森氏・青木氏・小室氏の名前で J-GAP オンタリオ部会活動で発表をし、CAJLE とし

て日本語のミニレッスンを行った。

- 2013年9月にオタワで開催される CASLT の AGM にラム会長が招待されたが会長・副会長共に時期的に出席が困難であり重要な項目も無いため、不参加を決定し先方への伝達済み。

#### 11) 会計（伊東）

- 2012年3月に開発したオンライン支払いシステムについての報告があった。2013年4月初旬に、そのシステムに「会員更新機能」が備わっていないことが判明し、まず、会員の皆様の中で、2013年5月末で会員期限が切れる方を対象に、システム障害の連絡を行った。同時にシステム開発を担当者に連絡し、早急に対応をしてもらった。
- 会員更新手続きについては、今後 CAJLE Webpage の Membership ページにその手順を掲載する予定。

#### 12) その他（ラム）

ウッド弘枝氏の訃報について、下野香織氏の辞任について報告があった。

#### 7. 会計報告：2012年度の決算報告と2013-2014年度予算案（伊東）

伊東氏より2012年度の決算報告の説明があり、承認された。

また、2013-2014年度予算案については、後日理事会の承認を得て、会員に報告するとのこと。

#### 8. 2014年の理事改選のリマインダー（ラム）

来年が理事の改選の年になり、他薦・自薦のメールが理事から送られるとのこと。

#### 9. 2014年 CAJLE 年次大会の予定（ラム）

開催地は今のところ未定である。詳細は決まり次第報告。

#### 10. 閉会の辞（下條）